

## 2015 年度 日本沙漠学会 秋季シンポジウム

日 時：2015年10月24日（土） 13:30 ～ 17:00

場 所：ハーモニータワー20階 NTC コンサルタンツ(株)会議室

テーマ：「乾燥地および半乾燥地における農村開発技術協力の課題と展望」

プログラム：

13:00 ～ 受付開始

13:30 ～ 13:40 開会挨拶 小島 紀徳 日本沙漠学会 会長

13:40 ～ 14:10 北中 真人（国際協力機構 農村開発部 部長）  
サブサハラ・アフリカ乾燥・半乾燥地における農業・農村開発協力の課題と展望  
Perspective of Agriculture and Rural Development in Arid and Semi-Arid Land in Sub-Sahara Africa

14:15 ～ 14:45 奥田 幸夫（国際農林水産業研究センター 農村開発領域 主任研究員）  
ウズベキスタンにおける排水システム改善の取り組みについて  
An Approach to Improve the Drainage System of Uzbekistan

14:50 ～ 15:20 大沼 洋康（国際耕種(株) 代表取締役）  
中東地域における農村開発技術協力の現場から  
From the Front Line of Technical Cooperation for Rural Development in the Middle East

15:25 ～ 15:45 休憩

15:45 ～ 16:15 滝川 永一（NTC インターナショナル(株) 企画本部特命事業推進部 部長）  
コートジボワール国の灌漑施設整備における住民組織化の課題  
Obstacles for Organizing Individuals on Improvement of Irrigation System in the Republic of Cote d'Ivoire

16:20 ～ 16:50 総合討論（モデレーター：西牧 隆壯 国際農林業協働協会 会長）

16:50 ～ 17:00 閉会挨拶 渡邊 文雄 日本沙漠学会 副会長

17:30 ～ 19:30 懇親会

## 中東地域における農村開発技術協力の現場から

### From the Front Line of Technical Cooperation for Rural Development in the Middle East

国際耕種株式会社 大沼洋康

中東乾燥地域における技術協力には長期にわたる歴史があり、様々な地域において様々なタイプの技術協力が実施されてきた。プロジェクトの関係者はそれぞれの現場において、地域の状況と時代の流れの中でより良い技術協力を展開するための試行錯誤を継続的に実施し、乾燥半乾燥地域における技術協力の経験を蓄積してきた。

湾岸地域においては、主に沙漠緑化や乾燥地農業に関連した技術の実証と試験研究活動が実施された。アラブ首長国連邦における技術協力では、カウンターパートが外国人であることが大きな問題ではあったが、オマーンではオマナイゼーションの動きの中で同様の問題は克服された。現在では、多くの湾岸諸国で自国民に対する人材育成に力が注がれている。両国での試験研究分野における協力を通して得られた知見は農業開発および環境行政面で利用されると共に、供与された施設や資機材さらには移転された技術がその後も継続的に活用されている。現在では政治も安定して治安も良いため、多くの観光客が当地域を訪問するようになり、国民は親日的なので技術協力はやり易い。従って、今後もコストシェア技術協力等を通じた活動の継続が望まれる。アラブ首長国連邦で試験研究に携わった人材には今後の環境保全や植物工場等の、そしてオマーンでマングローブ植林の経験を積んだ人材には沿岸環境保全やエコツーリズム等の新しい分野での活躍を期待したい。

一方、シリア・パレスチナ地域においては農業普及改善や普及員訓練を中心とした農業農村開発に関連した技術協力プロジェクトが実施された。シリアにおいては農業普及の改善と普及員訓練分野における専門家派遣を実施した後に、節水灌漑技術の農民への普及活動を実施したため、プロジェクトそのものが研究と普及の間の懸け橋となることが出来た。パレスチナにおける高付加価値型農業普及においては、導入技術の作物増収効果ならびに収益性向上の効果を農民グループと一緒に現場レベルで実証する活動に力が注がれてきた。この地域の人的資源は豊富で能力も比較的高いため、専門家とカウンターパートとの息の長い付き合いが築き易い。シリアでは現在のような状況に至っても、当時の専門家とカウンターパートは連絡を取り合って、一緒に復興活動で力を合わせる事が出来る日を夢見ている。このように濃密な人間関係の下で、極めて効率的な人材育成が出来たと考えている。シリア、パレスチナで共に現場で汗を流した普及員達には、今後の農業農村開発における先駆的な役割を担ってもらえるものと信じている。

2015年10月24日、2015年度日本沙漠学会秋季シンポジウムがNTC コンサルタンツ(株)会議室にておこなわれました。このシンポジウムで「中東地域における農村開発技術協力の現場から」について大沼が講演し、40～50名の参加者に人づくりの大切さを強調しました。

